

医の杜から巣立つ未来のドクターたち。
誰よりも輝く瞳。彼女には夢がある。

仁の道、 仁の人へ

To Future Doctors 03



RIKA MATSUMOTO
松本梨佳さん
川崎医科大学附属高等学校1年。
松本家の長女。

将来は、ドクターヘリに乗って
バリバリやってみよう。

と 娘 父 母



FUMIKO MATSUMOTO
松本文昭さん
松本クリニック院長。
医学博士、皮膚科専門医、形成外科
専門医、千葉大学非常勤講師。

SAKAE MATSUMOTO
松本早佳枝さん
松本クリニック副院長。
千葉大学第一内科・千葉県循環器病
センター等を経て当クリニックへ。

知識、技術、人間性…
すべてにバランスの取れた医師に。

高校生活を経験して 心のキャパが広がった。

「友だちと離れ離れになるのは辛かったけど、『医師になりたい！』その気持ちのほうが強かったんです」と、まっすぐな視線で話す梨佳さん。あどけなさのなかに意志の強さを秘めた美しい瞳。地元・茨城の中高一貫の私立中学からそのまま高校へ進学するという選択肢もあったなか、両親の母校でもある川崎医科大学附属高等学校へ進んだ。

「梨佳が小学六年生の時に、広島・岡山へ家族旅行に出かけたんです。その際に、せっかくだからと附属高校と大学に立ち寄りました。梨佳は『ここがお父さんとお母さんの母校？山奥だね』『大学にヘリコプターがある！』ってはいしゃいでしたね」と当時を懐かしむ文昭さん。選択の決め手は梨佳さんの強い意志。「医師を目指す高校なのでガリ勉なイメージがあったんです。でも、学校説明会で学校生活のスライドを見たり、先輩の話聞いたら本当に楽しそうでした。校風によさが伝わってきました。実際、入学してからも、少人数制による『先生との距離の近さ』をよく実感するという。母・早佳枝さんは、そんな梨佳さんの変化をこう感じている。「まず自分で洗濯ができるようになった(笑)。もともとしっかりした子だったんですが、一年間で大人になりましたね。親としてはちょっと寂しいけど、昔はよく弟(中学二年)とケンカしていました。今は仲がいい。寮生活で心のキャパが大きくなったのかもしれないね」。

頭はいいけど、人と向き合えない、 そんな医師にはなってほしくない。

現在、文昭さんは、茨城県龍ヶ崎市の皮膚科、形成美容外科「松本クリニック」の院長として忙しい日々を過ごしている。早佳枝さんも、内科医として当クリニックの副院長を務める。そんなお二人が出会ったのは、実は川崎医科大学附属高等学校時代。卒業後は揃って川崎医科大学、大学院と進み、九年間倉敷の地でともに青春期を過ごした。

「学校では知識も大切ですが、医師として不可欠な強い精神力と体力を身につけてほしいと思っています。そういった意味では、当校が一番多感な時期に『医の心構え』をきちんと教えてくれる。これからの時代、医師免許だけ取っても医師としての人生はまっとうできません。梨佳には、知識、技術、人間性：バランスの取れた医師になってほしいですね」と文昭さん。

いっぽう、早佳枝さんは「頭はいいけど、人と向き合えない医師にはなってほしくない。その点、梨佳は性格的に医師に向いていると思います。失敗してもクヨクヨしない。負けず嫌いですね(笑)」。

将来は「ドクターヘリに乗ってバリバリやりたい！海外でも挑戦してみたい！」とうれしそうに話す梨佳さん。その瞳は、倉敷の地で、さらに輝きを増していく。